
「胆膵術後出血におけるショックが総肝動脈径に与える影響とその臨床的意義：参照血管径の最適化を目指して」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの画像と診療記録を用いた以下の研究を実施いたします。本研究は、【埼玉医科大学国際医療センター臨床研究 IRB】の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2017年1月1日～2024年6月30日までに、胆膵手術後の出血性病変に対して埼玉医科大学国際医療センター画像診断科で止血目的のステントグラフトを留置した方。

2. 研究の目的

本研究では、出血時のショック状態が総肝動脈（CHA）の血管の太さに与える影響を調べ、適切なステントサイズの選び方を明らかにすることを目的としています。これにより、今後の治療の安全性と効果の向上が期待されます。

3. 研究期間

病院長の許可後～2026/3/31

4. 利用または提供の開始予定日

研究実施許可後から、約1か月程度
開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

本研究では、診療録等に記載された以下の情報を利用させていただきます。

- ・ 患者さんの背景（性別、年齢、現病歴、既往歴、治療歴、内服状況）
- ・ 現疾患に関する診療情報（臨床診断名、病期、病理分類、原発病巣の部位など）
- ・ 手術術式に関する情報

- ・ 病理検査の結果
- ・ 術後の臨床経過
- ・ 血液検査の結果
- ・ 画像検査の結果（血管造影、CT など）

この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学国際医療センターにおいて研究代表者が個人を特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

対象となる患者さんの検査データおよび診療記録、画像データを用います。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

| | | | |
|------------------------|------|-------|--------|
| 国際医療センター画像診断科 | 講師 | 氏名 | 宇佐見 陽子 |
| 国際医療センター画像診断科 | 准教授 | 氏名 | 中澤 賢 |
| 国際医療センター画像診断科、埼玉医科大学病院 | 講師 | 氏名 | 高橋 大雄 |
| 国際医療センター画像診断科 | 教授 | 氏名 | 馬場康貴 |
| 国際医療センター画像診断科 | 特任教授 | 田島 廣之 | |
| 国際医療センター画像診断科 | 助教 | 鈴木淳 | |
| 国際医療センター画像診断科 | 助教 | 浅見 志歩 | |
| 国際医療センター核医学科 | 助教 | 森 華帆 | |
| 国際医療センター消化器外科(肝胆膵外科) | 教授 | 氏名 | 岡本光順 |
| 国際医療センター消化器外科(肝胆膵外科) | 教授 | 氏名 | 合川 公康 |
| 国際医療センター消化器外科(肝胆膵外科) | 准教授 | 氏名 | 小野 宏晃 |
| 国際医療センター消化器外科(肝胆膵外科) | 講師 | 氏名 | 岡田 克也 |
| 国際医療センター消化器外科(肝胆膵外科) | 講師 | 氏名 | 渡邊 幸博 |
| 国際医療センター消化器外科(肝胆膵外科) | 講師 | 氏名 | 渡辺 雄一郎 |
| 国際医療センター消化器外科(肝胆膵外科) | 講師 | 氏名 | 高瀬健一郎 |
| 国際医療センター消化器外科(肝胆膵外科) | 助教 | 氏名 | 村瀬 芳樹 |
| 埼玉医科大学 RAセンター生物統計学教室 | 講師 | 氏名 | 仕子優樹 |
| 埼玉医科大学 RAセンター生物統計学教室 | 助教 | 氏名 | 大澤 麻衣子 |

4. 試料・情報の管理責任者

＜提供元機関＞ **【埼玉医科大学国際医療センター】** 病院長 氏名 佐伯俊昭

＜提供先機関＞ **【埼玉医科大学】**

5. 試料・情報の提供方法等について

他機関に資料を提供する場合には、試料・情報の内容に記載している情報を、個人が特定できないように加工した上で、パスワードをかけた電子ファイルとして、メールで送信します。

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

○研究課題名：

胆膵術後出血におけるショックが総肝動脈径に与える影響とその臨床的意義：参照血管径の最適化を目指して

○研究責任（代表）者：埼玉医科大学国際医療センター 画像診断科 宇佐見陽子